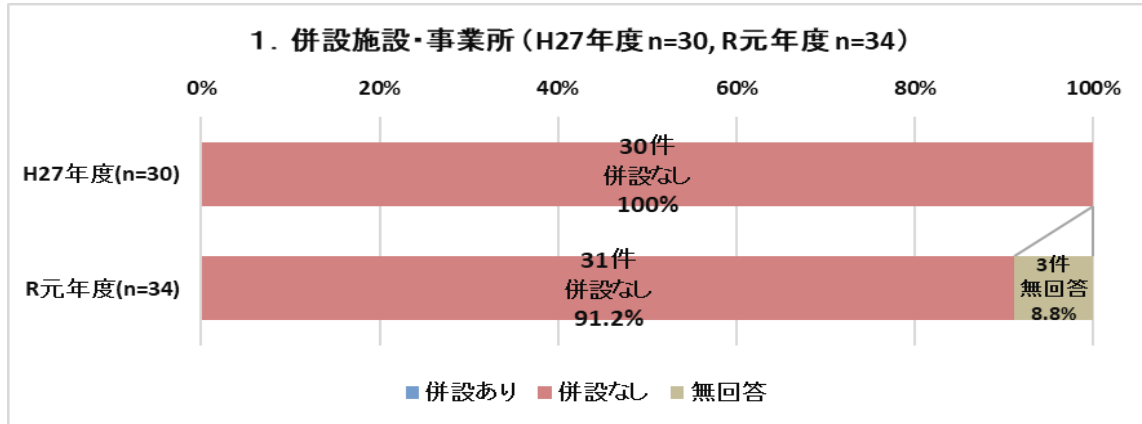


### 3 歯科診療所 (H27年度調査 回答数 30か所／対象数 35か所・回答率 85.7%) (R元年度調査 回答数 34か所／対象数 34か所・回答率 100%)

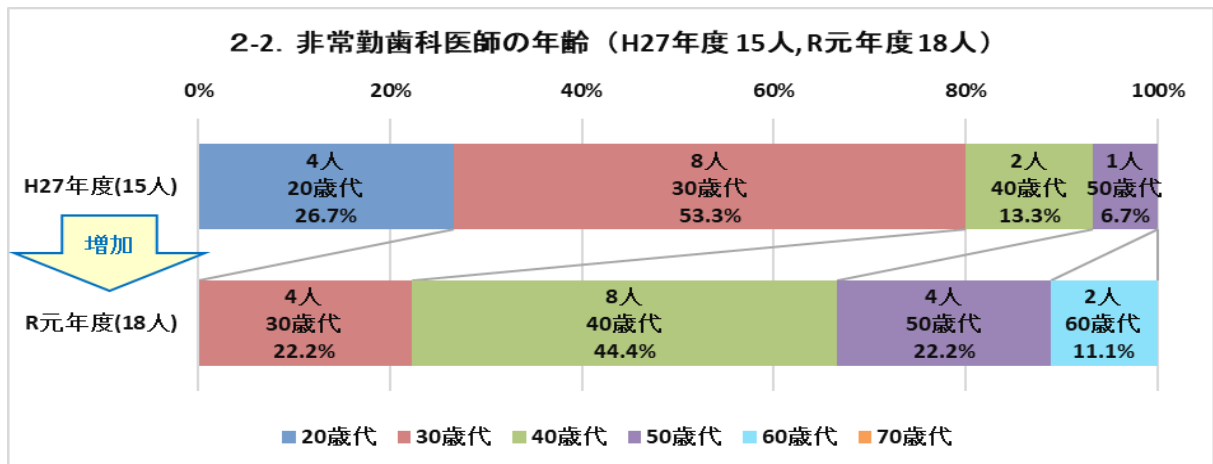
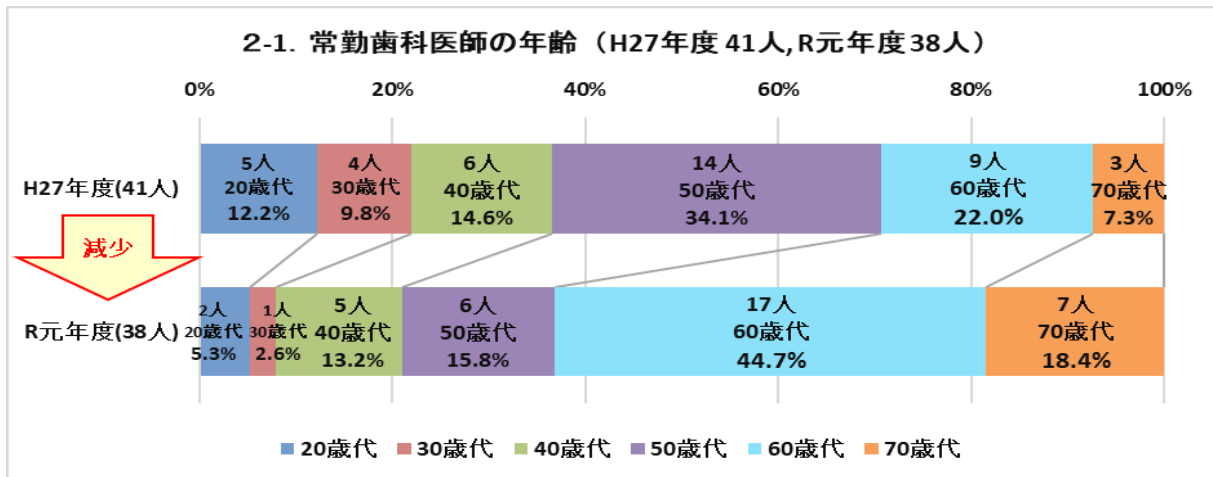
H27年度調査時より対象となる歯科診療所は1か所減少した。

#### 1. 併設施設・併設事業所

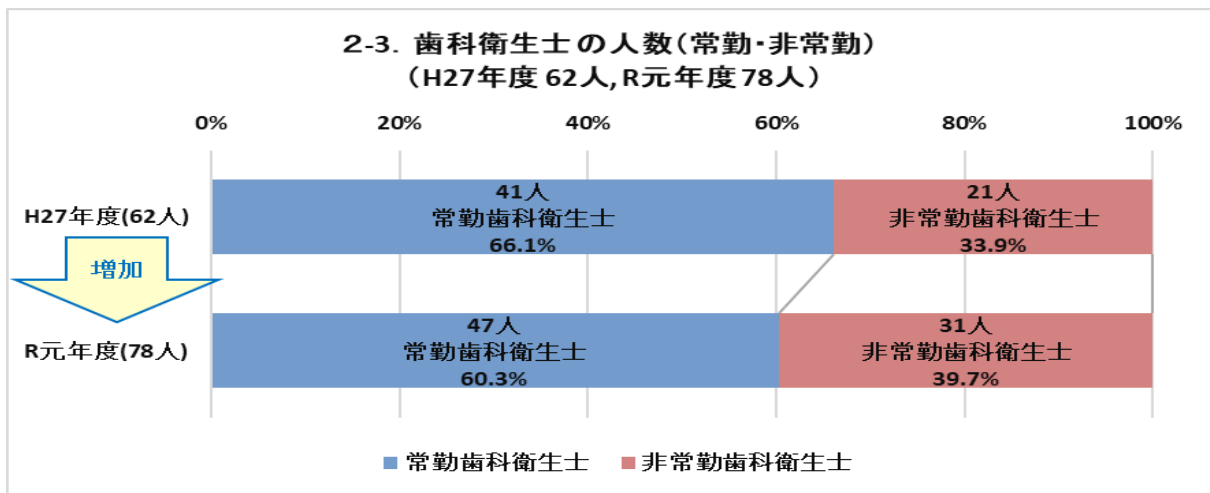


併設施設・事業所のある歯科診療所はない。

#### 2. 常勤歯科医師・非常勤歯科医師の年齢、歯科衛生士(常勤・非常勤)の人数

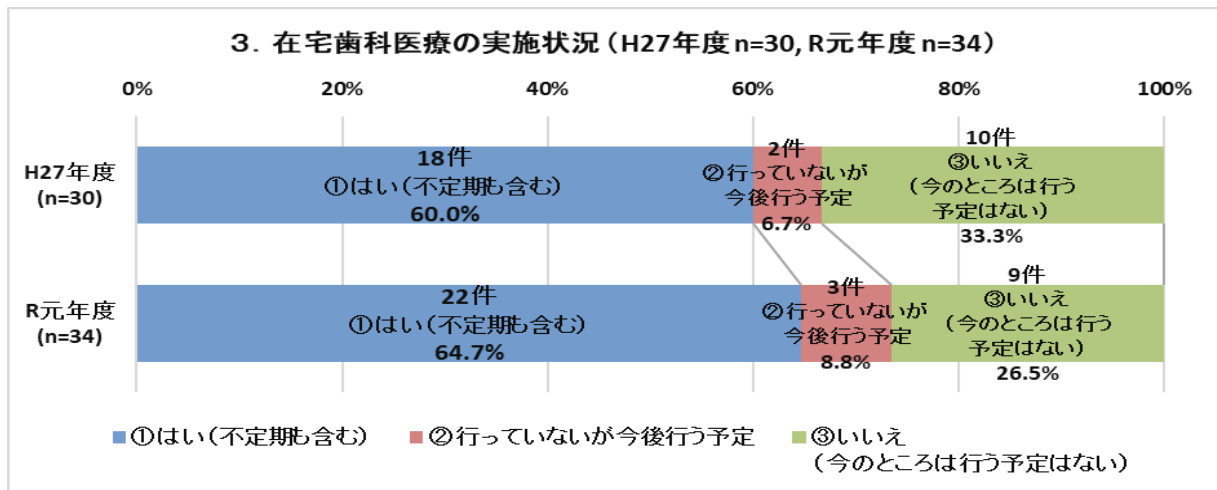


常勤歯科医師の年代について、20歳代～50歳代が減少し、60歳代～70歳代が増加。  
常勤医師の年齢層は高くなった。  
非常勤医師の年代は、20歳代～30歳代が減少、40歳代～60歳代が増加。  
非常勤医師の年齢層についても高くなった。



歯科衛生士については、人数が増加し、常勤・非常勤ともに増加。

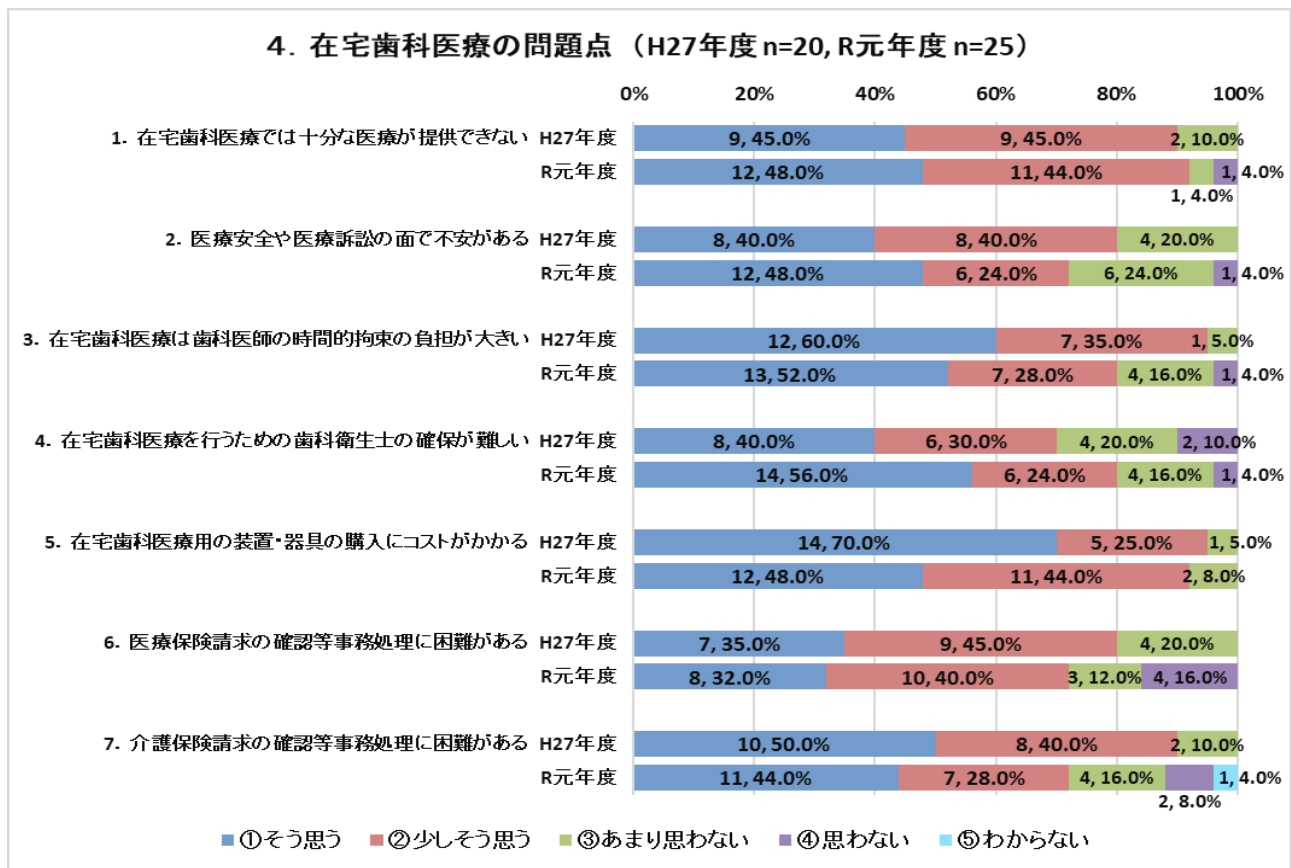
### 3. 在宅歯科医療の実施状況



在宅歯科医療の実施について「①はい(不定期も含む)」「②行っていないが今後行う予定」の歯科診療所数は増加。

#### 4. 在宅歯科医療の問題点

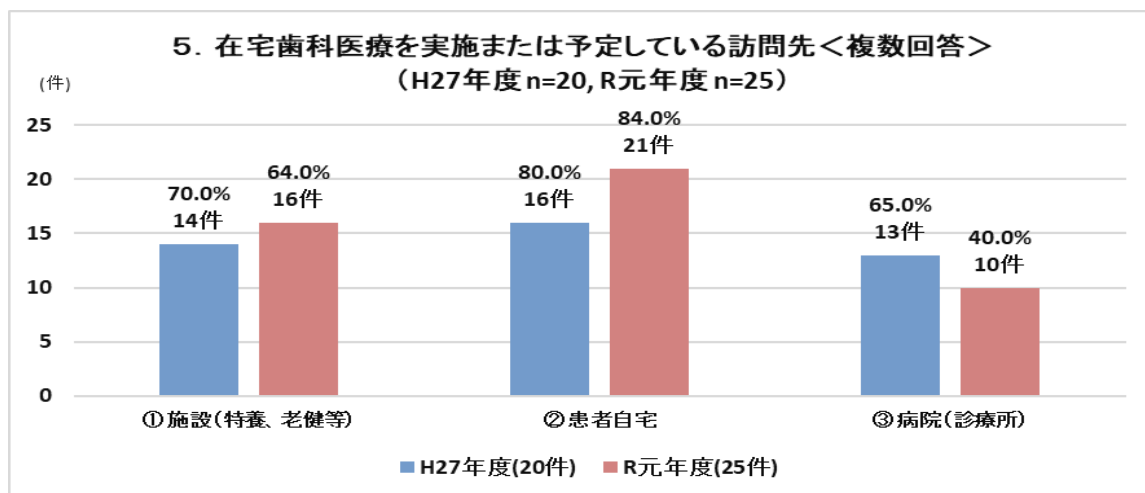
(設問3で①はい(不定期含)または②行っていないが今後行う予定と回答された歯科診療所)



「1. 在宅歯科医療では十分な医療が提供できない」「4. 在宅歯科医療を行うための歯科衛生士の確保が難しい」について、「思う」(「① そう思う」+「② 少しそう思う」)と回答した、歯科診療所数がH27年度に比べ増加。

#### 5. 在宅歯科医療を実施または予定している訪問先

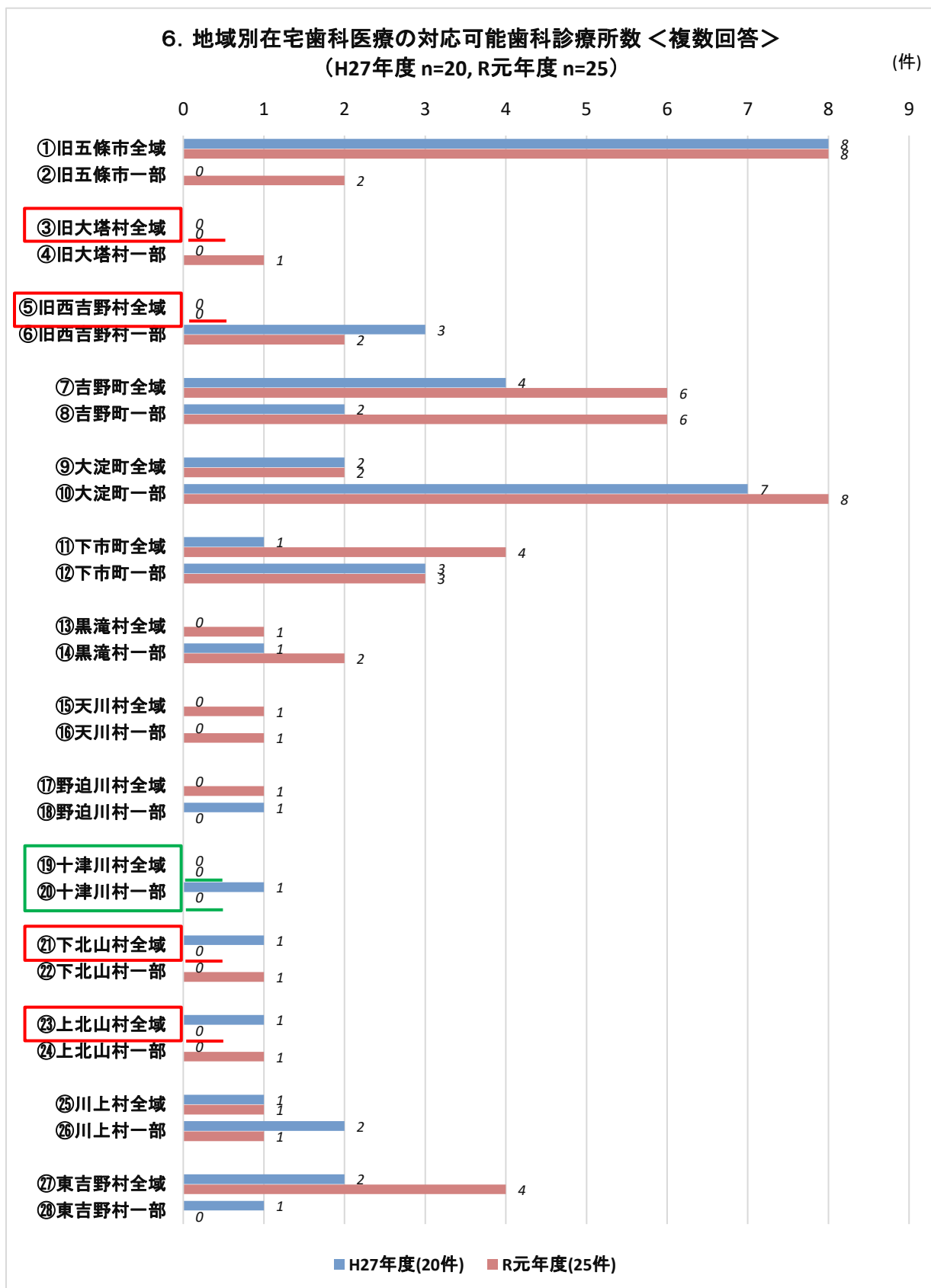
(設問3で①はい(不定期含)または②行っていないが今後行う予定と回答された歯科診療所)



在宅歯科医療を実施、または今後行う予定をしている歯科診療所についてH27年度よりR元年度で「①施設」「②患者自宅」との回答が増加。

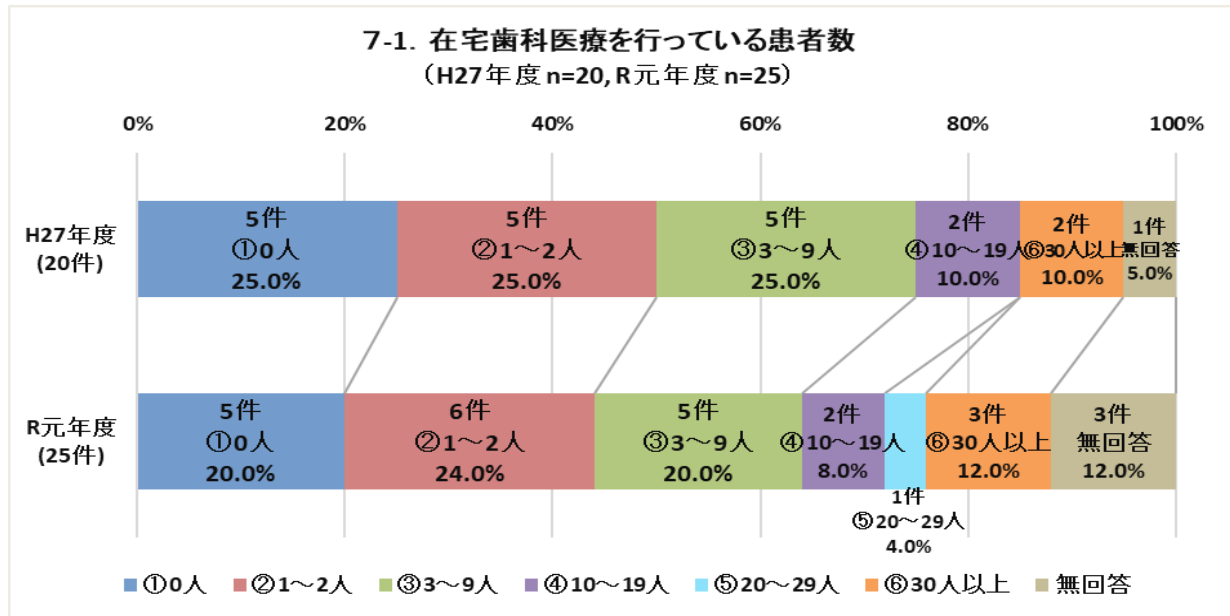
## 6. 地域別在宅歯科医療の対応可能歯科診療所数

(設問3で①はい(不定期含)または②行っていないが今後行う予定と回答された歯科診療所)

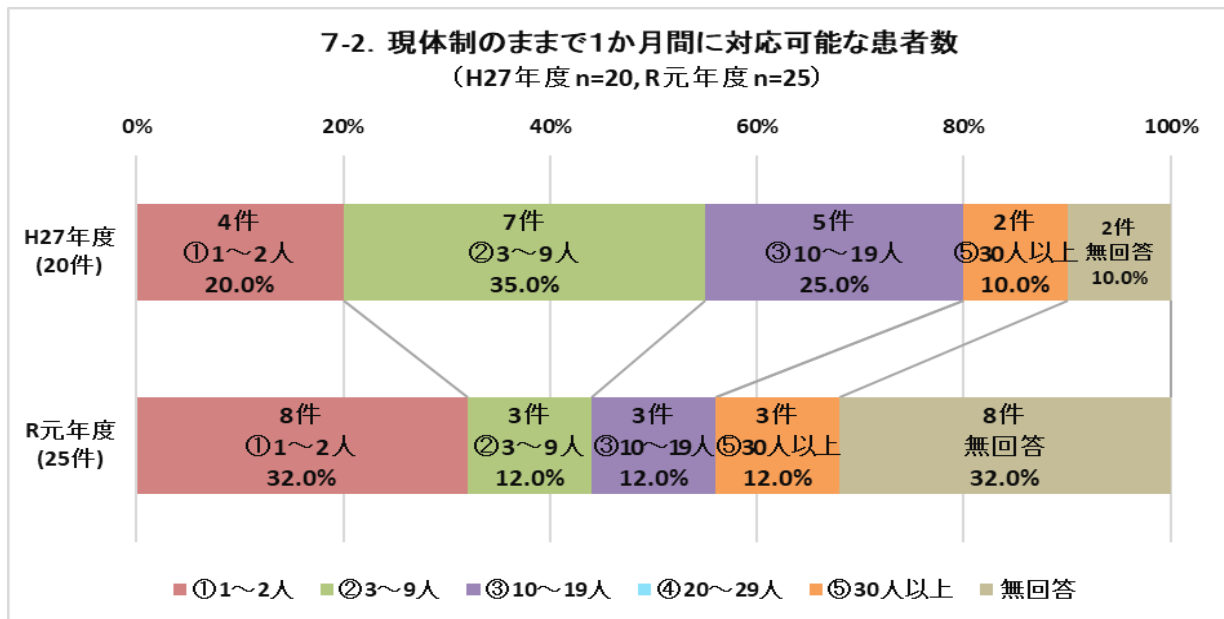


「③旧大塔村全域」「⑤旧西吉野村全域」「⑲十津川村全域」「㉑下北山村全域」「㉓上北山村全域」への在宅歯科医療の対応が可能と回答した歯科診療所は0件。  
「十津川村」においては、R元年度では「全域」「一部」のいずれも対応が出来ない。

7. 在宅歯科医療を行っている患者数、及び 現体制のままで1か月間に対応可能な患者数  
(設問3で①はい(不定期含)または②行っていないが今後行う予定と回答された歯科診療所)

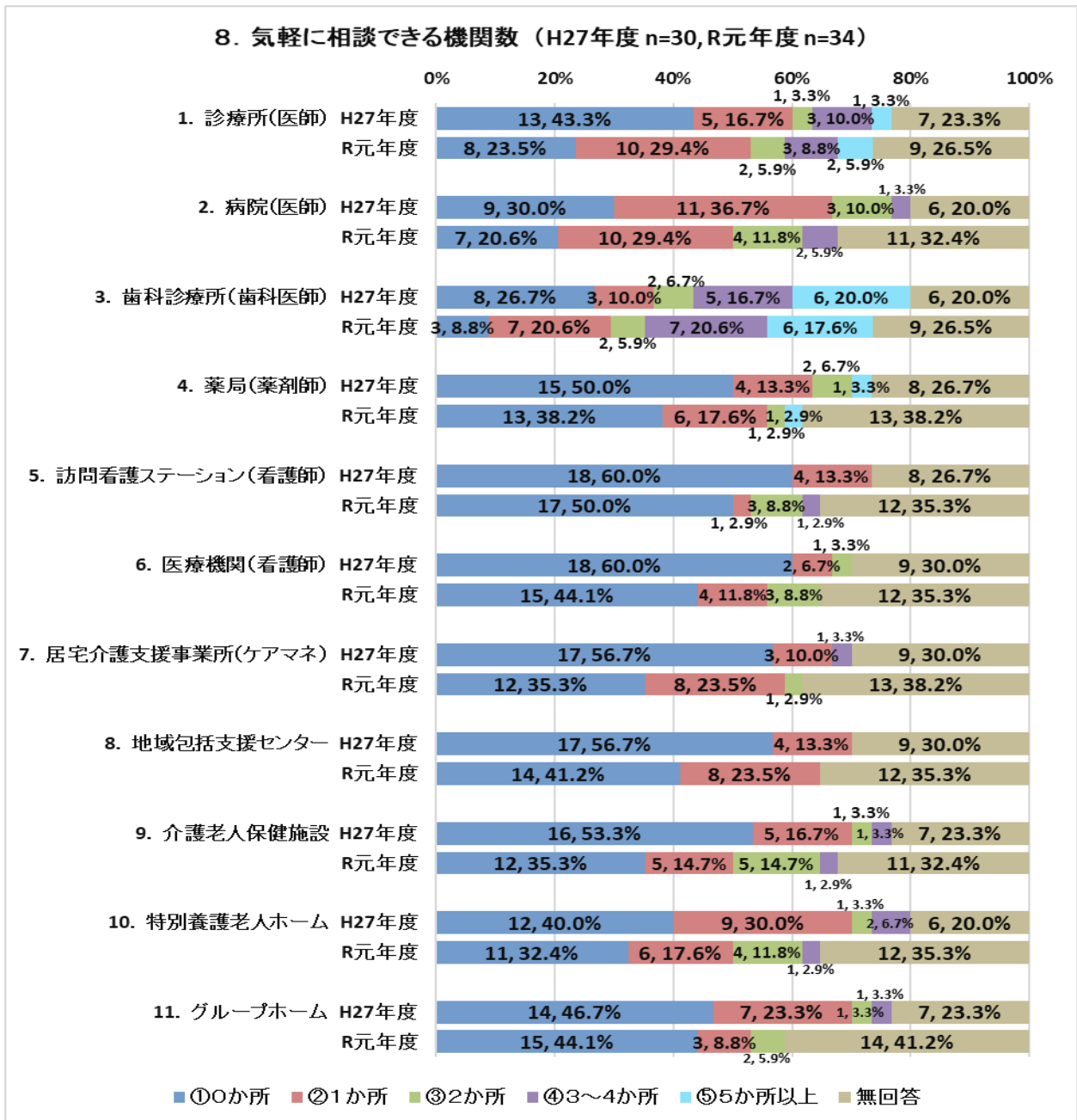


H27年度に比べ、各歯科医療機関ごとの在宅歯科を行っている患者数が増加。



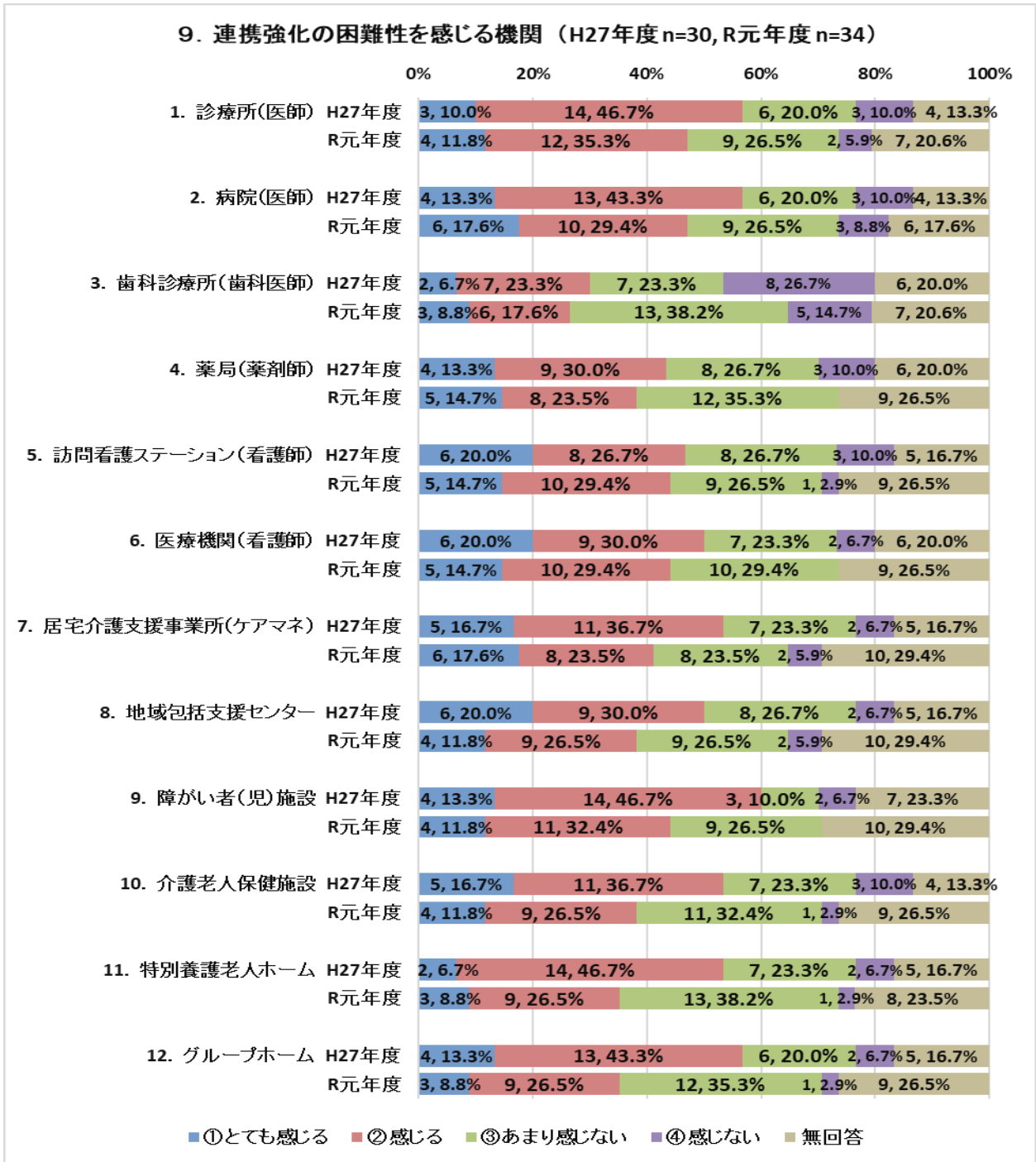
対応可能な在宅患者数(予測数)は「①1~2人」が最も多い。「⑤30人以上」と回答した歯科診療所が3件に増加。

## 8. 気軽に相談できる機関数



H27年度に比べ、全体的に気軽に相談できる機関数「①0か所」の回答割合が減少。

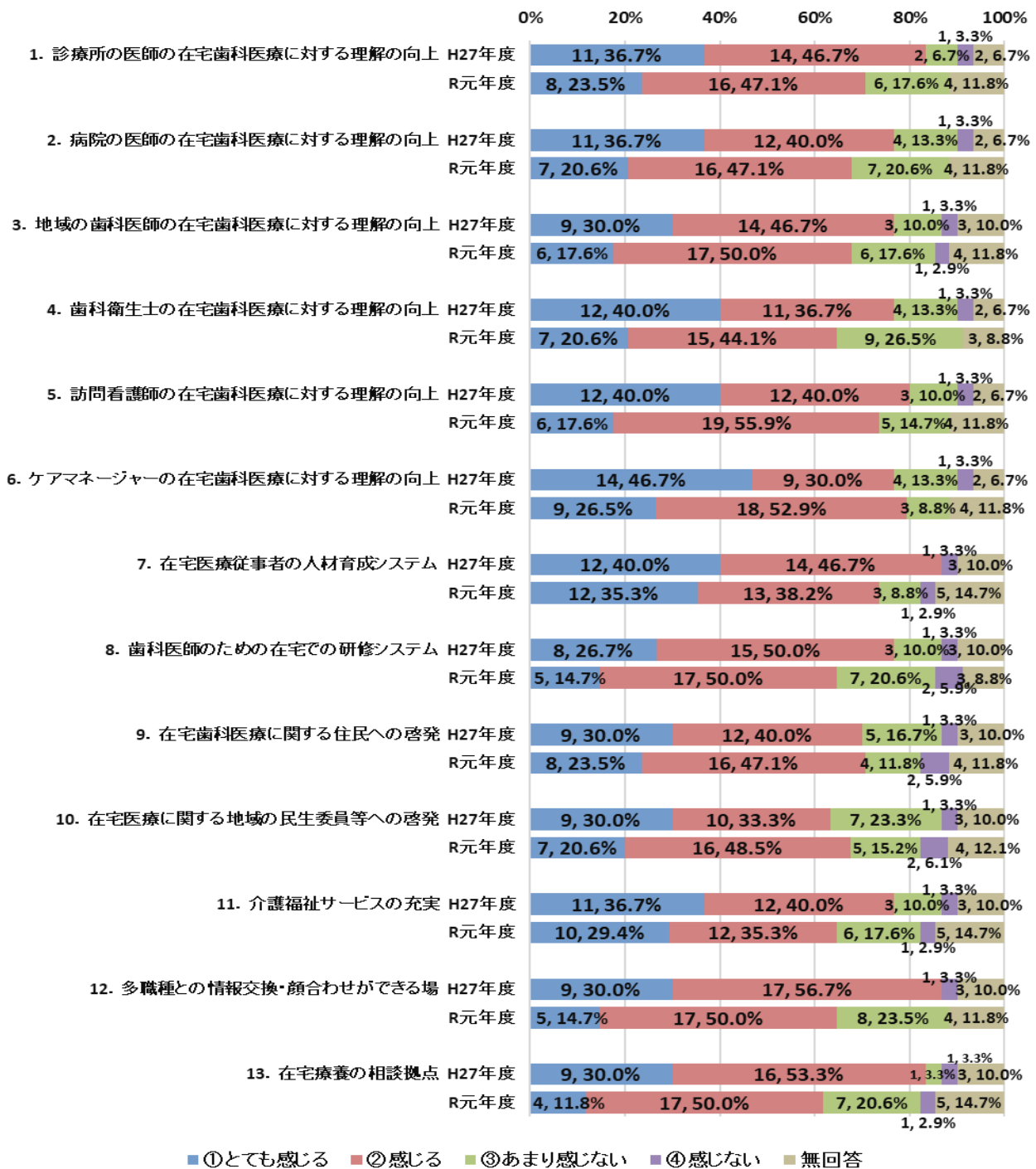
## 9. 連携強化の困難性を感じる機関



H27年度に比べ、全体的に連携の困難性を「感じる」(「①とても感じる」+「②感じる」)と回答した歯科診療所が減少。

## 10. 在宅歯科医療推進のために必要と感じる項目

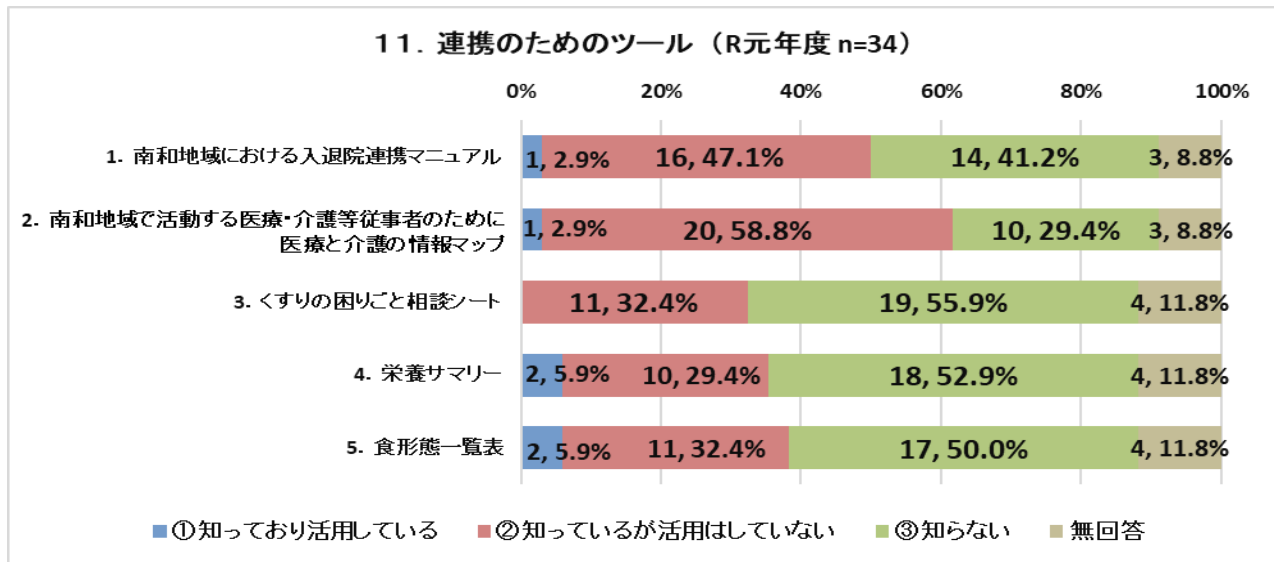
10. 在宅歯科医療推進のために必要と感じる項目 (H27年度 n=30, R元年度 n=34)



H27年度に比べ全体的に「感じる」(「①とても感じる」+「②感じる」)が減少し、「③あまり感じない」が増加。  
 しかし、「6.ケアマネージャーの在宅歯科医療に対する理解の向上」「9. 在宅歯科医療に関する住民への啓発」「10.在宅医療に関する地域の民生委員等への啓発」については「感じる」と回答している歯科診療所の割合が増加。

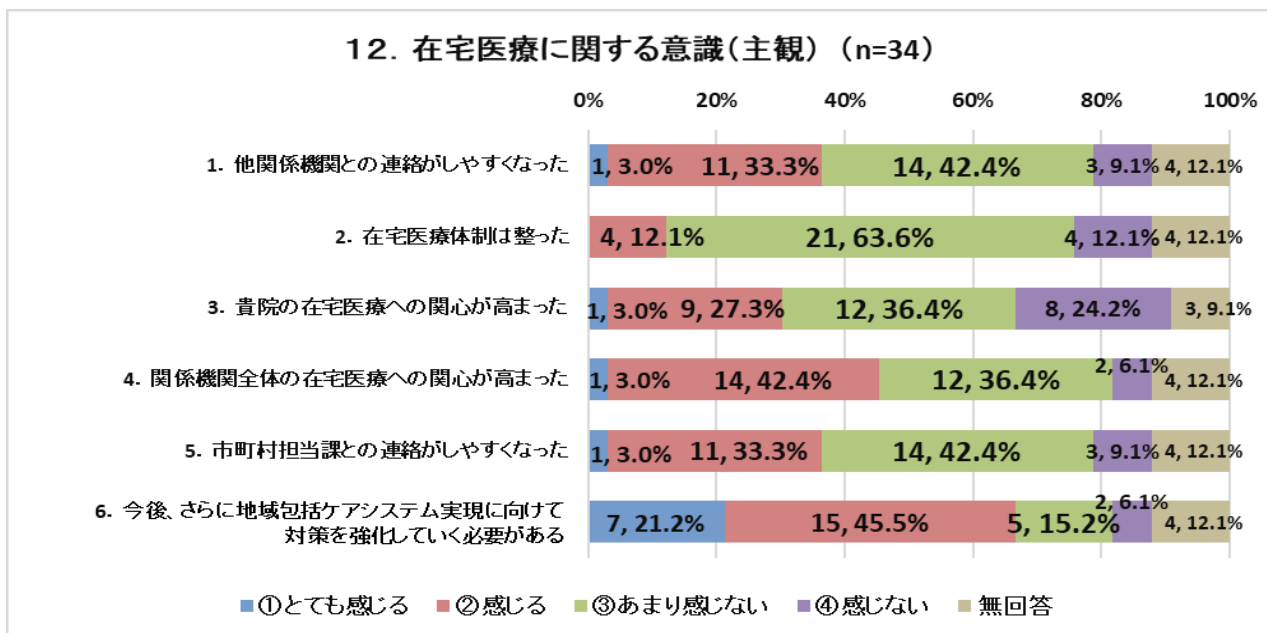


## 11. 連携のためのツール



「1.南和地域における入退院連携マニュアル」「2.南和地域で活動する医療・介護等従事者のために医療と介護の情報マップ」においては、「知っている」(「①知っている活用している」+「②知っているが活用はしていない」)が半数を超えている。「3.くすりの困りごと相談シート」「4.栄養サマリー」「5.食形態一覧表」は半数が「③知らない」と回答。

## 12. 在宅医療に関する意識(主観)



在宅医療に関する意識(主観)について、「6. 今後、さらに地域包括ケアシステム実現に向けて対策を強化していく必要がある」と半数以上が回答。

### 13. 在宅医療についてのご意見 <令和元年度調査より>

<p>必要性があるが、在宅がまだまだ普及していないのが現状。多くの高齢者が義歯修理や新製、また咀嚼機能のリハビリ、口腔ケアが必要であることをどのように周知していくか？在宅があまり増えない事に対する対策を考える必要がある。</p>
<p>往診に関しては、6月以降は往診予定がかなり増える予定ですので、地域や人数の依頼に関しては相談して頂いた時でしか判断できないと思われまます。</p>
<p>地域中核病院として南奈良総合医療センターが医科だけでなく歯科においても指導力を発揮して頂き、無 歯科医村、地域への人的協力を期待しています。 また、過疎化が進み交通の手段がない、広域なこの地域において在宅医療、歯科医療が広まり効率よく行 えるように、この地域独自の包括ケアシステムを構築して頂きたく思います。</p>
<p>いつもお世話になりまして有難うございます。当院は私が出張を多くする為、休診日が増え、診療日には 外来が多くなるので、なかなか在宅医療にまで手が届かず大変勝手にさせて頂いております。市内には熱 心な先生方が沢山いらっしゃるのの皆様にご助けて頂いております。これからはますます必要になってくる と思うので、在宅医療の教育を受けてある若手の先生方にご指導頂くのがベストだと考えます。今後ともど うぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>私達は標榜している時間内では、昼休みしか出かけて行きにくい。時間外はスタッフの手が少なくなる。エ リアが広くなると少し問題が出る。ただ、自分の患者の所には行くようにしている。</p>
<p>在宅行うにあたっての設備投資～改修に対する国の理解がない。</p>
<p>現在、当院では、施設、病院にての診療、口腔ケアが100件/月を超えており休日がほぼありません。必要 な事は色々感じておりますが、現在、居宅への訪問診療はもう不可能な状態です。</p>
<p>最近、南奈良総合医療センターあるいは吉野病院より情報提供とともに患者さんの紹介を時々頂く様 になりました。非常に喜んでおります。入院患者さんの「口腔機能管理」「口腔ケア」について入院中病院での 管理は充分やって頂いているようですが、退院後の管理がまだまだ不十分だと思います。退院後の連携に ついて医師、看護師、訪問看護師さま、そして特にケアマネジャーさんの口腔機能管理に対する御理解と連 携について研修会をして頂ければありがたいです。</p>
<p>ハイリスクの患者が多いので、これに関する研修を企画して欲しい。</p>
<p>車に乗れませんので、山間での在宅医療はできません。</p>
<p>① 看護・介護職に対して、口腔機能管理のエビデンス、重要性について、そして保健所及び歯科医療職が 現時点でどこまで対応できる準備があるのかを認知してもらえようイベントを企画して頂きたい。 ② ①の反対側から見て、歯科医療職に対して、在宅療養上のサービスにはどんな種類があり、どの地域に どの程度充実しているのか研修会等を企画して頂きたい。</p>